

令和8年6月5日

乳製品需給等情報交換会議における御意見

ホクレン農業協同組合連合会

- 北海道の生乳生産動向は、例年5月下旬～6月上旬に向けて増加傾向となるが、今年に至っては、3月中旬以降、ほぼ横ばいでの水準で推移している。
- 今年の夏は、北海道においても平均気温は高温になると発表されており、生乳生産と需要の両面で状況を注視してゆく必要がある。
- 中東情勢の影響も懸念があり、物価高騰や資材の供給などの影響が見えない状況で乳製品需給への影響が懸念される状況にあります。
- 現時点でこれらの動向を見通してゆくのは難しい状況にあるが、今回試算されているバター在庫の見通しは、1月時点よりも増加の見通しだが、現時点で輸入枠については変更する状況にはないと考えられる。
- 脱脂粉乳については、脱脂粉乳の在庫削減に向けて、業界としての検討と協議、対応を行っているところであります。関係者・国におかれましても引き続きのご対応をお願いしたい。
- 乳製品を含めた今後の需給動向の判断が難しい情勢にありますが、情勢が見えた段階で、改めて対応を確認してゆく必要があると考えますし、生乳の安定供給と完全販売に向けて需要の拡大や需給への対応について、国、業界を合わせた取り組みを引き続きお願いしたい。

一般社団法人中央酪農会議

- Jミルクが、本年1月に公表したJミルク需給見通しにおける令和8年度生乳生産量は、前年実績見込み比98.2%の減産見通しであった。
- こうした状況を踏まえ、本会議は、本年3月の理事会において、令和8年度の生乳出荷目標数量は、バターも含めた国内牛乳乳製品市場に対して国産で供給する観点で設定することを決定した。結果、5月実績までの生乳生産量は、予測に対して上振れで推移しており、現在の予測数量は、98.8%に上方修正されている。
- 一方の飲用等向け需要は、1月時点の予測を下回って推移しており、バターの在庫数量は、一定程度が確保されバター需給が大きな逼迫になる見通しとはなっていない。
- このため、現在設定されている令和8年度の輸入枠について、変更の必要性が考えられないことを意見として申し上げます。
- なお、国内のバター市場への安定供給に取り組む結果、脱脂粉乳在庫量が増加しており、業界においては、需要拡大対策や在庫削減対策に取り組んでいる。引き続

きの農水省等からの支援・ご指導をお願いしたい。

- 中東情勢の変化に伴い、資材価格の高騰や安定供給に対する将来不安が生産現場では広がっている。価格高騰の抑制や安定供給に係る引き続きの行政対応をお願いしたい。

一般社団法人 J-milk

- 不透明な外部環境下においては、状況変化を的確に捉えた柔軟な対応が極めて重要であると考えております。
- 国産牛乳乳製品の需要拡大に向けては、「牛乳でスマイルプロジェクト」の下、共通ロゴの利用やポータルサイトの充実による個々の取り組みの融合を推進し、業界内外のコラボレーションによる優良事例の創出と横展開に努めてまいります。脱脂粉乳の在庫低減にも資するヨーグルトの需要拡大に関しては、夜グルトという夜間の喫食提案に加え、今年度は夏場の消費拡大に向けた若年層対象の戦略的なプロモーションも検討しております。関係各所の活動が相乗効果を生むよう連携を強化し、実需につながる効果的な施策を業界一体となって進めていく必要があります。
- 生産基盤の強化・維持や生乳需給の安定化に向けては、脱脂粉乳の在庫数量の増加傾向への対応が不可欠です。今後、製造・保管能力の圧迫による生産基盤等への悪影響や持続可能な発展の阻害を回避するためにも、過剰在庫の削減は喫緊の課題となっています。需給変動へ迅速に対応する保険的制度として開始した「酪農乳業需給変動対策特別事業」においては、2025 年度に約 1 万 2 千トンの在庫削減を実施し、2026 年度も約 1 万 3 千トンを対象に実施する方針を決定いたしました。次年度以降もさらに在庫が増加する懸念があるため、需給ギャップの縮小に必要な対応を機動的かつ効果的に講じていく必要があると考えております。

これについては 3-5 月の J ミルク委員会で議論を重ね、需給改善対策をとりまとめたところ。6/17 の定時総会で内容を公表予定しており、会員のみなさまには別途説明会を開催予定している。

一般社団法人日本乳業協会

(生乳生産)

- 生乳生産については、昨年の乳価の引き上げ等により生産意欲が刺激され、搾乳牛 1 頭当たり乳量は増えているものの、後継牛の減少傾向を反映して、2025 年度下期からは減少に転じている。
- 2026 年度も後継牛の減少傾向は続くため、生乳生産は引き続き前年を僅かに下回って推移すると見込まれる。
- 北海道については、年度末に向けて搾乳牛頭数の回復に伴い生乳生産もわずか

ながらも増加傾向に転じると見込まれる。

(バター)

- バターについては、昨年の乳価引き上げに伴い価格改定がなされたものの、輸入バター価格も高止まりしていたことなどから、国産品に対する需要は比較的堅調に推移している。
- 昨年の夏過ぎ頃からバターの国際価格は急速に低下しており、堅調であった国産バターの需要が、価格の安い米国産品等に置き換えられていくことが懸念される状況となっている。
- 他方、2026年度の生乳生産は昨年度を僅かに下回り、乳製品向けが減少すると予測されるため、バターの生産は前年度を僅かに下回ると見込まれるが、在庫は昨年度に引き続きわずかに積み上がるものと見込まれる。

(脱脂粉乳)

- 脱脂粉乳については、最大の需要先である発酵乳の生産は、昨年来の消費拡大対策の効果もあり、価格改定がなされたにもかかわらず比較的安定的に推移している。
- しかしながら、その他の需要は依然として振るわないことから、需要は低調に推移している。
- 2026年度もこの傾向は続くものとみられるため、脱脂粉乳の生産は減少すると予測されるものの、需給は依然として緩和傾向が続くものと見込まれる。

(まとめ)

- 以上のような需給見通しを踏まえ、国家貿易によるバター及び脱脂粉乳のカレント・アクセス輸入については、特に変更する必要はないと考える。
- ただし、イラン情勢により燃料油や石油関連製品の価格や調達が不安定となっており、今後の動向いかんでは、調達コストの上昇により価格改定が必要となり、生乳生産や乳製品の需給にも影響を及ぼす可能性は否定できない。
- このため、生乳生産の動向、脱脂粉乳とバター双方の需給の推移を見極め、迅速かつ柔軟な対応をお願いしたい。

一般社団法人全国スーパーマーケット協会

- 2026年1～4月の牛乳は価格影響や競争環境による苦戦が目立った一方、乳製品市場はヨーグルトが比較的安定して好調に推移

(牛乳)

- 価格改定や競合との価格差、買上点数減少の影響が継続。
- 1～2月は不調コメントが多かった。

- 3～4月は単価上昇により売上が前年並み～前年超となる企業もあったが、数量面の弱さは残った。

(ヨーグルト)

- プレーンタイプを中心に期間を通じて堅調。
- 2月はインフルエンザ流行でR-1やドリンクヨーグルトが伸長。
- 3～4月も機能性商品や販促、気温上昇を背景に好調を維持。
- 乳製品カテゴリー内では最も安定した分野だった。

(チーズ／バター・マーガリン)

- 商品ごとの差が大きかった。
- チーズは1月こそ販促品や価格訴求商品が好調だったが、2月以降は不調傾向。
- バター・マーガリンは4月に好調な動きがみられた。

一般社団法人全国消費者団体連絡会

- これから迎える真夏に向け、酪農現場では今年も「暑熱対策」を重点とした飼養管理が行われることについて、ご尽力に感謝します。一方、牛乳・乳製品については、家庭の人数減少や高齢化を背景に、最近の価格上昇の影響も大きく、消費が減少傾向にあることを憂慮しています。
- 国際情勢、長引く物価高から、消費者の節約志向は継続し、食品を無駄にしたいくない思いも定着していることで、「従来の容量では使い切れない」といった声もあります。少量サイズや用途に応じた商品など、暮らしに合った選びやすい工夫が望まれます。
- 鮮度や品質、安全性、栄養面など、「国産乳製品の価値や役割について」引き続き丁寧な情報提供をお願いしたいと思います。消費者理解が進むことで、消費の拡大もあるし、生産現場への感謝や一体感、消費と生産の持続性につながることを期待します。
- 最近目にしたコラムでは、6月に心身の充電が切れて体調を崩す「六月病」と言われる症状に、対処法の一つとして乳製品の摂取が効果的とのことでした。乳製品に含まれているトリプトファンという栄養素が、精神的な安定をもたらしてくれるそうです。牛乳は熱中症予防の効果もあると報道でも言われていること。暑さやジメジメで憂鬱な朝にも、牛乳をコップ一杯飲んで、気持ちと身体をスッキリフレッシュさせましょうと、そんな切り口で発信していくのも良いのではと感じます。
- 牛乳の消費の拡大に向けては、大学生や若年層に向けて、効果的にアプローチすることも重要ではないでしょうか。牛乳でスマイルプロジェクトは、認知が広がっているとはいえない状況。例えば、イベントの場での飲み比べ体験、運動・美容・

栄養面からのアプローチ、スポーツ大会との連携など、若者の関心の方向に結びつけた取組みが有効ではないかと思います。夏に大学生のインターシップを迎えるが、食の分野で食べ比べ体験として牛乳の飲み比べをやる予定。若者のライフスタイルに訴求することで、SNS との親和性が生まれることも期待できるポイントかと思っています。

- これからの季節柄、日常的に「牛乳で水分補給と栄養補給を心掛ける」ことや、「牛乳・乳製品をお菓子や料理で活用する」ことを意識して、給食のない時期にも実践的な支援をしていきたいと思っています。

卸売業者【家庭用】

- 市販用バターは引き続き、売場におけるバターの欠品は無く、供給は安定している。
- 市場においては、2025 年 3 月の価格改定に続き、7 月にも主要メーカー各社の乳価改定に伴う価格改定があったため、市販用バターの動向は、25 年度に続き 26 年度も需要拡大の要素は乏しい状況と捉えている。
- 市販用バターの供給（納品率）に関しては大きな影響はなく、価格改定の際に一時的に需要が落ち込んだが、現時点では前年並みに推移している状況である。
- また、主要メーカー各社の市販用バターの在庫状況は、適正であるという声が多いが、搾乳牛の減少や夏の猛暑への影響など不安視する声も聞こえている。

一般社団法人日本パン工業会

（バター）

- 国内産品については、引き続き、前年同水準での供給制限がある。
- 外国産品については、価格が下降傾向にあり、国内産品よりも優位性がある状況にある。
- コンビニを中心にバター使用を謳いたいという要望が相当程度ある中、国内産品だけでは原料確保が困難な状況であるため、輸入枠の拡大を含めた検討をお願いしたい。

（脱脂粉乳）

- 調製品の価格が最近上昇し、優位性が少なくなってきた。
- 外国産調製品から国内産品への切替えを検討している事業者もある。

協同組合全日本洋菓子工業会

- バター全体の需給状況については、「改善してきた」「調達への不安はない」とい

った意見が従来より多く寄せられるようになっている。その背景には、商品の値上げに伴う販売量・生産量の減少による国産バター使用量の縮小、国産バターから輸入バターへの切替の定着、新製品における国産バター使用の抑制など、企業として本意ではないやむを得ない対応が影響しているものが多く、これをもって需給状況が本質的に改善したとは言い難い。

- 需要側としては、総供給量の拡大、すなわち輸入バターを含めた供給量の増加による需給緩和と安定供給の実現、さらには価格の安定化（適正化）に資する取り組みを、引き続き強く求めたい。

全国菓子工業組合連合会

- 国際乳製品相場は昨年後半以降やや落ち着きを見せているが、為替動向や物流費等の影響もあり、輸入バター価格は依然として高止まりしているため、国産バターに需要が引き続き集中し、需給ひっ迫の一因となっています。
- 輸入バターで対応可能な需要については、輸入バターの安定的かつ十分な供給により、国産バターへの需要の過度な集中を緩和していただきたいと考えます。令和8年度の輸入枠運用に当たっては、国内需要動向を十分踏まえ、機動的かつ柔軟な対応をお願いします。

（以上）